

ネットワークセンター事業報告:

ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局

本事業事務局では、福島県が実施する全国の避難者・帰還者支援団体を対象とした「ふるさとふくしま交流・相談支援事業補助金」の事務業務をおこなっています。本年度は昨年度と補助金の名称が変わり、「県外避難者帰還・生活再建支援補助金」、「県内避難者・帰還者心の復興事業補助金」の2つの補助金として実施されています。それぞれの補助金の第1次採択事業は、6月1日より、県内外84の避難者・帰還者支援団体によって実施されています。また2次募集が6月15日から7月2日までにおこなわれ、そちらは8月初旬より事業開始となっています。

現在事務局では、応募書類の確認作業や審査資料の作成、応募団体への審査結果の通知等をおこなっています。7月には全国5か所で、採択を受けた団体を対象とした事務説明会を実施し、9月からは全国の採択団体を訪問し、事業の実施状況や事業会計の整理状況の現地確認をおこないます。また、本事業ウェブサイト(<https://www.ff-shien.jp>)では

採択団体の情報を掲載しているほか、各採択団体を実施する避難者交流会などの実施予定や活動の様子を随時掲載していく予定です。

本年度から本補助金の交付限度額が350万円と明示されており(ただし、「特に効果が高い事業については知事が認めた額を加算する」としています)、本補助金においても、適切な事業計画をおこない、効果・成果をあげ、それを表現することが、より明確に求められてきているといえます。事務局では、避難者支援団体が補助金を適正に使用できるよう支援していくほか、補助金の使用を通して避難者支援団体が事務能力等を向上することや、組織風土の違う行政と支援団体との関係づくりなど、中間支援組織として避難者支援団体の活動を支援できるよう、取り組んでいます。

(ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局
所長 山崎 友也)



—福島県より受託、運営している施設—

●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>
E-mail saposen@f-npo.jp

—福島市の指定管理制度で運営している施設—

●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

—福島市より受託、運営している施設—

●まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20
コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

編集後記

前回から時間が経ってしまったの発行となり、会員の皆様にはお詫び申し上げます。昨年度は各事業所共に事業をスムーズに終わらせることが出来ており、今年度も順調に事業を進めております。

例年より1か月早く、助成金(ふくしま元気市民活動助成金)の募集も始まりました。

私も担当理事として、職員に負けずに頑張ろうと思います。

助成金には是非とも応募下さい。

(ふくしまNPOネットワークセンター常務理事 菅野 真)



●編集・発行

認定特定非営利活動法人
ふくしま NPO ネットワークセンター
〒960-8068
福島市太田町 12-30 マルベリービル 6階
TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931
E-mail center@f-npo.jp URL <http://www.f-npo.jp/>



認定 NPO 法人 ふくしまNPOネットワークセンター通信 No.66

のっぽの手

◆◆◆◆ 注目記事 ◆◆◆◆



「新年度を迎えて」

各ネットワークセンター
「事業報告」

2018年 7月発行

新年度を迎えて



ふくしまNPOネットワークセンターは、6月から新しい年度に入りました。2018年度もネットワークセンターは、

- ①中間支援NPOとしてのミッションを確認しながら、
- ②ふくしま地域活動団体サポートセンター(サポセン)を中心とした事業(これは福島県からの受託事業となります)、
- ③ふるさとふくしま交流・相談支援事業(ふるふく)の事務局運営(これも福島県からの受託事業です)、
- ④福島市市民活動サポートセンター(ふくサポ)を中心とした事業(福島市からの指定管理および受託事業)、
- ⑤まちの駅ふくしま情報ステーションを中心とした事業(福島市からの受託です)に加え、
- ⑥ふくしま市民活動フェスティバルの事務局運営(今年は10月21日に開催!)
- ⑦助成金事業(のっぽ基金助成金、ふくしま元気市民活動助成金)などに着実に取り組んでいきたいと思

います。

このうち、ふくサポは今年度で5年間の指定管理期間が終了し、新規更新のタイミングとなります。この夏にも新規契約をめぐるプロポーザルが予定されています。2005(平成17)年3月にふくサポが設置されて以来、その管理運営を一貫して担ってきた自負はありますが、なにせプロポーザルには、競争相手と審査委員がいます。実績の強調のみならず、新しい方向性や工夫も打ち出していかなければならないでしょう。まずはここを取りこぼすことのないよう慎重かつ大胆に臨みたいと思っています。

会員みなさん、今年度もご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(ふくしまNPOネットワークセンター
理事長 牧田 実)

ネットワークセンター事業報告:

まちの駅ふくしま情報ステーション

平成29年度まちの駅ふくしま情報ステーション事業は、平成29年度福島市市民活動活性化支援事業補助金2年目の申請から始まりました。29年度事業名「まちの駅ネットワークふくしま」活動推進事業は○マップ増刷で市民の利用促進
○「まちの駅と“おもてなし”のまちづくり情報交換会～ガイド編～」の2本立てで行いました。情報交換会ではこれからのまちの駅事業の方向性や展開の可能性について意見交換がなされました。5月25日には平成30年度まちの駅ネットワークふくしまの定時総会が開催されました。平成30年度事業目標の一つに「のぼり旗30枚作成」を掲げています。のぼり旗作成は会員の拡大に繋がるものと捉え、助成金事業情報交換会等で機運を高めた会員一同一丸となって進めてい

くところ です。

ふくしま情報ステーションでは、入場者数が28年度34,128人、29年度42,462人で前年度比24%の増となりました。来所の目的は観光資料を求めているお客様が圧倒的に多く、お客様のニーズを見据えながら資料の充実に努めたいと思います。

また、全体的な人数は少ないのですが、外国人の来場者数も28年36人、29年56人と増えてきており、今後も増えていくことが予想されるインバウンド対応について、より良いサービスを提供できるよう職員の観光案内のスキルを高めていく努力が必要ではないかと考えています。

(ふくしま情報ステーション 所長 齋藤 美左子)

ネットワークセンター事業報告： 福島市市民活動サポートセンター



グローバル化などにより人権や多様性への意識が高まり、また、経済環境の複雑化などにより経済格差への不透明感が増加している中、NPOをはじめとした市民活動団体の活動が社会に認知されその重要度がますます増えています。そのため、これらの団体への私たち中間支援のあり方にも対応や変化が求められていると認識しています。

そこでふくサポでは、施設などの貸出支援や、なやみ相談・助成金の情報提供などの事業を引き続き実施していくのは勿論のこと、さらに、以下の三点を加味しつつ今年度も多くの事業を実施していく予定です。

★各団体の経営基盤強化に関する更に強力な 長期的な取り組みの実施

市民活動団体の組織基盤の脆弱性を改善するべく、今年度も、特に財務基盤と人材基盤の強化を中心とした講座を実施します。

さらに、昨年度に引き続き第二期の『経営ゼミ』を開始しました。このゼミは、「ゼミ生が自ら学習内容を企画し、自ら考え行動し、自ら気づき成長し、自らの団体の経営に活かす」というユニークなモノで、タケダ製薬の支援を得て日本NPOセンターとの協働で私たちが実務を担当しています。昨年は福島県内の市民活動団体から若手の5名の経営者を選出し、約一年間、切磋琢磨してこの三月に無事卒業しました。ゼミ生は、共に育み、一年でひとまわりもふた回りも大きくなり逞しくなりました。そして卒業後もゼミ生同士がネットワークを組み、協働で事業を開始しています。また、二期生とも交流を行っており、今後さらにネットワークの輪が広がっていくことが期待されます。



～ふくしまNPO経営ゼミの様子～

★更に多くの市民に市民活動を知ってもらい、 協力してもらい、参加してもらう

今年も一般市民向けの講座・いきいき夜楽・まちづくりトークカフェの実施やラジオによる活動団体のイベント広報などを積極的に行って参ります。その中で、多くの市民に市民活動に興味をもって頂き、活動への協力や参加に結びつけていきたいと考えています。

さらに、10月に実施を予定している「ふくしま市民活動フェスティバル」では、昨年に引き続き多くの市民に会場いただき、また、昨年より多くの学生ボランティアや企業の参加を促し、参加団体との「架け橋」としたいと考えています。



～市民活動フェスティバルの様子～

★行政や団体同士に加え、大学・企業などとの 協働の拡大

協働という言葉が多用され、ここ数年、私たちもその重要性を認識し、市役所の人たちと共に市民活動の協働の拡大を図って参りました。が、順調に拡大しているとは言えないのが現状です。そこで、マッチングを更に意識して、事あるごとに積極的に働きかけを行い、知り合うチャンスや場の提供を続けているところです。今年も、チェンバおおまちの市民活動サポートセンターでの出会いを中心に、企業や団体に出向いた際には、課題の聞き取り内容から必ず協働の可能性を探り、橋渡しをして参りたいと考えています。

(福島市市民活動サポートセンター
常勤顧問 深澤 秀樹)

ネットワークセンター事業報告： ふくしま地域活動団体サポートセンター

ふくしま地域活動団体サポートセンターは今年度も県内の中間支援センターとのネットワーク形成強化を目指し、地域課題解決に取り組むNPO団体の支援を行っていきます。

【NPO運営力強化支援事業】

今年度は県内のNPO支援を行う行政やセンターに協力いただき講座や情報交換会を開催予定です。過去2回県内の多くの方々にご参加いただきました、「福島県NPOのつどい」の開催にむけた話し合いを第1回地域活動団体中間支援センター情報交換会にて行いました。

・第1回地域活動団体中間支援センター情報交換会
日時：平成30年6月14日(木)13:30～16:00
場所：郡山市ミューカルがくと館 大ホール
参加者：中間支援センター職員、中間支援委託・権限移譲市町担当者 等

第1部 近況報告、「福島県NPOのつどい」振り返り、意見交換
第2部 「中間支援のネットワーク形成と資金調達」
講師：横田 能洋氏(認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ代表理事)

第2部の横田さんからは自身が行っているネットワーク形成の方法や中間支援としての役割について、資金調達のポイントなど自団体でもいかなるお話をいただきました。



【第1回地域活動団体中間支援センター情報交換会の様子】

○講座開催(予定)

NPOの現場で使えるスキルを学ぶ
～話し合い・チーム力アップのコツを体験しよう～
「ファシリテーション基礎講座」
日時：7月21日(土)13:30～16:00
場所：喜多市厚生会館 第3研修室
講師：遠藤 智栄氏(地域社会デザイン・ラボ代表)

～NPOのための効果的なチラシ作り～
「NPO広報講座」
日時：7月28日(土)14:00～16:00
場所：田村市役所 1階多目的ホール

講師：渡辺 ひろこ氏(NPO法人うつくしまブランチャ代表理事)

～NPOのためのイベント企画・運営セミナー～
日時：8月31日(金)14:00～16:00
場所：郡山市ミューカルがくと館 大ホール
講師：五井 利明氏(NPO法人 CRファクトリー理事・事業部長)



(<https://f-saposen.jp/>)

【チャレンジインターンシップ事業】

この事業は4年目となり、昨年同様、学生、受け入れNPO法人ともに規模を拡大しておこないます。県内24のNPO法人に福島県在住、出身の大学生、高校生、専門学生を1週間～10日程度50名の学生を受け入れていただきます。7月8日(日)の開講式を皮切りに7月、8月、9月と福島復興を目指して、自発的かつ意欲的に活動が行われます。学生や受け入れる団体の熱い意気込みはサポセンのニュースレターやサポセンHPでも取り上げていますので、そちらをぜひご覧ください。
(<https://f-intern.f-saposen.jp/>)

【NPO、企業との連携・協力事業】

2年目となるこの事業はNPOと企業との協働・連携を図ることを目的としています。社会課題解決にむけて地域活動を行うNPOと社会貢献活動を行っている、または行いたい企業を事前調査し、より良い連携が図れるようにマッチング・サポートいたします。今年度もマッチングのための2つのNPO事前講座を経て11月にNPOと企業とのマッチング会を開催予定です。
(<https://fnpo-matching.f-saposen.jp/>)

(ふくしま地域活動団体サポートセンター
チーフ 野地 理恵子)